

くらしナビ・子育て・親子：性への違和感受け止めて

毎日新聞 2015年10月26日 東京朝刊



日高唐晴教授が作製した冊子「わが子の声を受け止めて 性的マイノリティの子をもつ父母の手記」は、URL (<http://health-issue.jp/p/>) から入手できる。兵庫県川西市は、小学校入学前の子どもがいる保護者に配る冊子「エール 子どもの幸せを願って」の中でLGBTを紹介している。

拡大写真

「娘がズボンしかはかない」「息子が化粧で遊んでいた」――。近年LGBTなど性的少数者が話題になることが増え、子どもの言動に「もしや」と思った人もいるかもしれない。子どもがいわゆる男の子らしさや、女の子らしさに当てはまらない場合、周囲はどう対応すればよいのだろうか。

●1クラスに複数

電通総研が今年、全国の約7万人(20～59歳)に行ったインターネット調査では、LGBTなどに該当すると答えたのは7・6%。学校の1クラスに複数いる計算だ。LGBTの自殺予防に取り組む団体「いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン」の調査(2013年)では、LGBT約600人の約4割が、子どもの頃に「誰にも打ち明けなかった」と回答した。理解してもらえないと思ったり、いじめや差別を恐れたりしたのが主な理由だった。

LGBTの子どもや若者の支援に取り組む遠藤まめたさん(28)は、体は女性でも幼い頃から女の子らしい服装や行動を求められることに強い違和感があった。心と体の性別が一致しない「性同一性障害(GID)」のことを知り、自分が該当すると認識した。高校2年の時、体を男性に近づける治療を受けたいと思い、母親に打ち明けたが、受け入れてもらえるまでには数年間かかった。

遠藤さんは「子どもが一番分かってほしい、味方になってほしいのは親。でも理解してもらえなかったらと考えると言い出しにくい」と話す。

岡山大ジェンダークリニック(<http://www.okayama-u.ac.jp/user/g-clinic/>)が14年、体は男性で心は女性のGID患者52人に行った調査がある。小学生の頃に打ち明けようと思ったのは14%。このうち打ち明ける相手としては、母60%、友人20%、担任教諭13%の順だった。

●話せる環境作って

ただ、親が子の状況を察して水を向けるのがよいとは限らない。遠藤さんは「本人が誰かに打ち明ける気持ちになっていなかったり、自分が苦しむ理由をきちんと理解していなかったりする場合もある。知ってほしいと思った時に話せる環境を作っておいてほしい」と強調する。

GID学会理事長の中塚幹也・岡山大教授は、親が日常生活の中でLGBTに否定的なことを言うと、子どもは「理解してもらえない」と感じて心を閉ざすと指摘する。

そもそも、服装の好みや遊び方が体の性別にそぐわないように見えても、一時的な現象ということもある。周囲が先走って決めつけるのは避けたい。

性同一性障害の場合、親が「いずれ変わるだろう」と思って受診を先延ばしにして第二次性徴が始まると、治療の効果が出にくくなる。中塚教授は、我が子が性別に違和感を持っていると思った場合、早めにジェンダークリニックに相談することを勧める。医師と一緒に子どもの様子を見守ることで、早期の診断が可能になる。

● 支え合う親の会

LGBTの子を持つ親同士が支え合う団体も各地にある。子への接し方や具体的なケースを知ること、心の準備ができる。NPO法人「LGBTの家族と友人をつなぐ会」の尾辻孝子理事長（70）は「多くの親は、子どもを認めてあげたくても、どう認めればよいのか分からない。『あなたはあなたのままでいいよ』と子どもをしっかり受け止めてほしい」と助言する。

尾辻さんは、娘（40）が26歳の時にレズビアンだと打ち明けられたが、ショックを受け、その後2年間は話題にしなかった。しかし、娘の「お母さんの育て方が悪かったわけじゃない」との一言に救われ、応援する気になった。

9年前に同会を設立し、親や当事者らが集まって話したり、電話で悩みを聞いたりしてきた。「1人親家庭だったせいか」「親戚に合わず顔がない」などと悩む保護者もいるが、「LGBTは個性の一つ。みんな違って当たり前」と話すと、納得してもらいやすいという。

多くのLGBT当事者や家族の話聞いてきた宝塚大看護学部の日高庸晴教授は「一番大切なのは子どもを守ること。たとえ場が白けても『それのどこが悪いことなの？』と言い返し、子どもには『自分らしくあればいい』と何度も伝えることが必要」と話す。

また、日高さんによると、例えば「オカマ」のようなゲイを侮辱する表現をふざけて口にする人は、恐らく相手がLGBTとは想像できていない。大人の発言は子どもに影響しやすく、学校でのいじめに発展する可能性は高い。「差別や偏見をなくすために、地域や保護者による学習会、自治体や学校からも啓発を続けることも大切」と指摘する。【五味香織、鈴木敦子】

=====

◇ LGBT

性的少数者の総称。レズビアン（女性の同性愛者）、ゲイ（男性の同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（心と体の性が一致しない性同一性障害などの人）の英語の頭文字を取った。

=====

◇親や親子向けの活動をしている団体

◆NPO法人LGBTの家族と友人をつなぐ会

<http://lgbt-family.or.jp/>

神戸市（事務局）電話090・6055・2424

メールfamily2006@goo.jp

東京都電話090・9876・2423

メールtokyo@lgbt-family.or.jp

福岡県電話080・4820・2423

メールfukuoka@lgbt-family.or.jp

◆NPO法人SHIP（横浜市）

<http://www2.ship-web.com/>

電話045・306・6769

◆性と人権ネットワークESTO（秋田県）

<http://estonet.info/>

電話080・6049・8843

メールesto@estonet.info